FACE スタッフの横顔

廣瀬重之 Shigeyuki Hirose

●海洋科学技術センター総務部総務課　課長代理

「何でもやる課ですよ、総務課は。ほんとに、何でもやります」とテンポよく答えて取材に応じてくれた廣瀬さん。入所後、潜水調査船の整備などを経て「しんかい2000」パイロットに。潜航調査を10年近く経験している。陸に上がっての仕事は海中を調査研究していた頃とは違っていろいろ大変そうだ。

わからないこと、確認したいことは総務課へ問い合わせがきます。研究員や職員からのそうした電話に、ひとつひとつ答えるのも仕事です

秘書・庶務・総務の業務を十数人でこなす

「大きな会社では秘書課、庶務課、総務課という３つの部門に分かれていることがあるでしょ。この３つが担う仕事をひとつにまとめて手がけているのが海洋科学技術センターの総務部総務課です。

役員への対応から、総務関係業務のとりまとめ、特殊法人改革関連、情報公開法への対応、それから、組織・職制の管理、文書の管理、出張手続きの確認、車両管理、職場環境の整備、地元調整、ＯＡ機器の維持管理、事務処理情報システムの構築といったことから、食堂の管理、共済会との調整業務、健康・衛生管理など福利厚生の分野の仕事もあります。組織図には、職員の健康管理をお手伝いいただく嘱託医のお名前も載っています」

あわただしく自分の机に戻った廣瀬さんとのやりとりは、総務部総務課が担当する業務の話から始まりました。ざっと分けただけでも２５項目におよぶ業務があり、そのすべてを廣瀬さんほか十数人のメンバーでこなしています。

海洋科学技術センター横須賀本部・本館別館の７階にある総務部総務課。上司の机が窓ぎわに横一列に並び、その前に廣瀬さんたち職員の席が設けられています。書類を保管する棚、コピーをとる場所、電話にパソコン…どこの会社にも見られるオフィスの風景があります。

「しんかい２０００」のパイロットを経て、研究員と乗組員との連絡調整などを担当する研究業務部海務課へ。その後、海洋科学技術センターが取り組む業務の計画・調整や、試験研究の管理・評価等を手がける企画部計画管理課で仕事をしたのち、廣瀬重之さんがこの職場へ異動してきたのは、昨年の１０月でした。

「長くパイロットをやり、海務課で船に関わってきたので、海とつながった現場から離れて企画部計画管理課に移ったときは、ちょっとさみしい想いをしました」

本音もさらっと言ってのけます。

海洋科学技術センターらしくない職場!?

総務部は裏方である。その会社に働く多くの人たちが、働きやすい会社であるように雑務をこなす。

会議や打ち合わせなどで本部のあちこちに顔を出し、敷地内を歩き回る。自分の席に戻り、ちょっと落ち着くともう夕方

やはり照れくさいようだ。まわりのスタッフや上司が、カメラマンの求めに応じてポーズをとったり表情をつくろうとするところをからかう。「上司なんですが上司らしくないんです」「若い男性職員にとっては兄貴的な存在の人です」とは、いつも一緒に仕事をする総務課の女性職員のコメント。アザラシに似た可愛らしさがある、と評してくれた女性職員もいる。その憎めないキャラクターは、総務課のムードメーカーと呼ぶにふさわしい。

総務部はひたすらに忙しい部署である。ひっきりなしに電話がかかってくる。

そんな言葉を引き合いに出しながら、廣瀬さんの話は少しずついい調子になってきました。

「ここがまさしく、海洋科学技術センターの総務。文字通り、何でもやる部署です。研究員のいるフロアなどと比べると、いちばん海洋科学技術センターらしくない職場でしょうね。これといった特徴がない。いわゆるオフィスっぽい、という意味でね。

あれ、どうなってるの？　とか、これはどういうことだっけ？　といった問い合わせや質問は、ほとんど総務にかかってきます。言い換えれば、職員が聞きたいこと、わからないことに答える窓口が総務なんです。ほんとうはいま、海洋科学技術センターのどの部署がどんな研究に取り組んでいるか、という全体の動きは総務課のスタッフとして知っておかなければいけない要素です。が、この点についてはスタッフも私もまだ不十分。机に向かうことが増えて、研究の現場をのぞいたり研究員と話す機会が減ってしまったからかもしれません」

ようやく机に落ち着く、もう夕方

時期を問わず、会議や打ち合わせなどで一日の大半は席を離れているといいます。席に戻ったかと思うと別の用件で呼び出されたりすることもあります。その日の予定をこなし、ようやく自分の机に落ち着くのはだいたい夕方近くなってしまうとか。

「パイロットの仕事はいま以上に責任やプレッシャーはありました。いまはセンター内部ばかりでなく文科省をはじめ外部対応も多くパイロットとちがうプレッシャーは感じます。仕事の魅力とかやりがいを比較するのは難しいですね」

このあとの言葉を待っていると、また電話が鳴ります。今日も遅くまで仕事になりそうな 廣瀬さんです。